

# みこころ



カトリック松山教会  
〒790-0003 松山市三番町四丁目 5-5  
川上 栄治 神父 O.P  
発行 広報活動委員会  
TEL.089-921-1849 FAX.9-921-2109

## 感謝のうちに歩む

明けましておめでとうございます。今年もよろしく願います。

二か月ほど前、ほぼ同じ時期にわたしが東京での神学生時代にゆかりのあった方から、それぞれの教会の広報誌を送っていただきました。

どちらの教会もミサのできない状況下でなんとか教会活動をしていくための努力を模索している様子が短い紙面の中で知ることができました。



カトリック松山教会  
担当司祭  
川上 栄治 神父 O.P

最近になり、日本ではコロナウイルスの感染者が非常に少なくなりました。ヨーロッパやアメリカ、そして他のアジア地域で感染者が急増しているのとは対照的です。

おそらく東京の多くの教会でミサが再開されていると思います。

この愛媛において、8月から9月において感染者が増加したため公開ミサを中止したものの、それ以降、感染者は急激に減少し、感染者ゼロの日が続いています。

この状況で「ミサで歌をうたいたい」と思われる方がいても当然だと思います。

ただ、先日発生したオミクロンの変異株が世界中で猛威を振るっている中、日本でも感染者は少しずつ増えています。

症状は、それほど重症でないと言われていますが、やはり警戒しなければなりません。

この状況においてこそ、改めてわたしたちは、昨年の聖週間の祭儀が非公開で行われたこと、今年の9月から10月末まで、司祭と先唱者のみで行われたサイレントミサの時のことを思い起こすべきです。

「ミサに行きたいけど行けない」「ミサで声を出して祈りを唱えたくても唱えられない」という状況がありました。

わたしたちは物事が順調に進んでいると、「もつと〜したい」と思うようになります。

もちろん、そういう思いは物事を進める活力になりますが、その願いが実現しない

と物事に対する不満を抱くことになりません。

これは現代社会の人々が抱える問題であり、それは教会に集うわたしたちも例外ではないのです。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」

これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」(1テサロニケの信徒への手紙5章16〜18節)

この言葉は、わたしたちが喜び、祈り、感謝のうちに日々を生きることを勧めています。

しかし、それは決して物事を無理やり受けとめるのではなく、自分が与えられたことに喜びながら感謝し、そして神に祈りを捧げることによって、自分の歩みがより確かなることの意味しています。

今あることに喜び、感謝しながら、日々、祈りのうちに歩んでいきたいものです。



# 黙想会で学ぶ

生涯養成委員会 日野 和子

クリスマス黙想会は、

12月 3日（金曜日）は21名の参加。

12月12日（日曜日）は36名の参加。

合計57名の参加者が、川上 栄治神父様のもと「聖体の秘跡」というテーマでお話を聞きました。



私が印象に残ったのは、イエス・キリストは、私たちのために、真にご自身をお与えになり、私たちは、真にイエス・キリストご自身にあずかっている。

イエス・キリストの十字架の唯一で一回限りの「いけにえ」が、祭壇上に現存するのです。

こうして、わたしたちをあがなう「みわざ」が達成されるのです。

イエス・キリストのからだを「食べる」ことによって、神様を自分の体に入れる。

仕事、苦しみ、喜びなど、すべてイエス・キリストへの「いけにえ」として結びつけることができる。ということでした。

私の日常を「いけにえ」としてささげ、ご聖体をいただくことにより、罪と戦う力を与えていただき、生きる力となるものだ、ということが一番心にとまりました。



参加された方々の感想です。

神父様の説明がわかりやすかった。

この黙想会に出席して良かった。

時々ひとつのテーマでこういう勉強会があったらいいなあと思った。

皆と一緒に神父様のお話を聞くことが出来て「共同体」の意識を改にした。

参加してよかった。

また、このような機会がありますように、せつに望み希望します。

このようなお話を聞きたかったです。

等々多数頂きました。

# 七五三の祝福

松岡 幸子

11月28日 日曜日11時の御ミサで息子「よしと」の七五三の祝福をしていただきました。



1人だけの祝福で、本人も緊張していましたが、5歳の時よりお兄さんになったようです。私の後ろに隠れることなく、神父様の方を向いて立つ後ろ姿に成長を感じました。信徒の方と共に祈り、こころ暖まる祝福でした。ありがとうございました。



松岡よしと君（7歳）

ひとりで恥ずかしかったけど、みんなにお祝いしてもらえて、本当にうれしかったです。

# 消防・避難訓練の実施

地域ネットワーク 田中かよ子



10月31日午後1時から1時間ほど、評議会委員ほか計17名が参加して、消防・避難訓練を実施しました。訓練は、聖堂（祭壇）からローソクによる出火を想定して、**通報↓避難↓消火**の順で行いました。

松山教会は、聖堂から避難するとき階段を利用しなければならぬので、階段を使った人がや高齢者の救助の方法やコツを教わりました。二人一組で体験しましたが、これがなかなか難しく、繰り返し行う必要があると感じました。



両脇から患者の手を持つ

二人で安全な運搬・担ぐ方法、膝で患者の上半身をささえます。患者の両脇から手を通し、患者の腕を上から持ちます。（二人で運ぶ場合は、この状態で患者を引き寄せ移動させます。）



患者の足を交差して持つ

二人で運ぶ場合、もう一人は患者の足を持ちます。患者の足を交差させ持ちます。

このとき、抱える側と反対側の足が上になるように交差させると持ちやすいでしょう。二人で声を掛け合い患者を持ち上げます。



① 「ピン」安全栓抜く

消火訓練では、消火器を使い消防士さんの「ピン」で安全栓を引き抜き「ポン」でホースを持って、「パン」でレバーを強く握って噴射する。

「ピン」「ポン」「パン」の法則の説明後、さっそく希望者が挑戦しました。



② 「ポン」ホースを持つ

まず消火器の上部に差し込まれている黄色いリングを「ピン」と抜く、

その後、本体に固定してあるホースを「ポン」と外し、最後にグリップを「パン」と握る。この3つの合言葉を覚えていけば消火できます。



③ 「パン」レバー強く握る

その他に消火器を火元に向けて噴射すること、炎が高く上ったら躊躇（ちゆうちよ）なく、その場から逃げることを教わりました。

今回は「17名という少人数で訓練を実施しましたが、多くの信徒の方々にも訓練に参加して頂けるように広げていきたいと思ひます。

# AED講習会の実施

地域ネットワーク 田窪 由紀子

10月の避難訓練に引き続き、11月21日に、AED講習会を開催しました。

災害と同様に誰が、発症し倒れることがあっても、すぐに対応できるように、救急法を身に付けることが目的で開催いたしました。

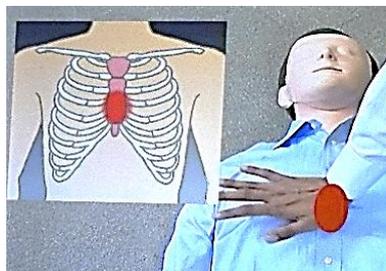
指導していただいたのは、セコムのAED講習会専門スタッフの方に来ていただきました。

参加者は評議会の委員以外に、ベトナム人の方にも参加して頂き、15人が参加しました。



講習会の内容は、まずDVDで、心肺蘇生法や、AEDの使用法を見たいうで、実技講習に移り、練習用の模型人形を使い、心臓マッサージやAEDの使用法を一人一人練習いたしました。傷病者が倒れている時、軽く肩をたたいて「大

丈夫ですか」と耳元で声をかけ、反応を確かめる  
反応がないときは、周囲に大声で助けを求めます  
「119番に電話してください」「AEDがあれば  
持って来てください」と大きな声で呼びかける。



その間、胸骨圧迫による心臓マッサージを行う

胸骨圧迫は、胸部を約5cm沈む強さで1分間に100回から120回のテンポで強く、速く、絶え間なく押します。

AEDが到着するまで押し続けるのです。  
AEDのフタを開けると電源が自動的に入ります。



音声ガイドに従いAEDのフタから四角い袋を取り出し袋を破いてパッドを取り出します。  
2つの電極パッドをシートからはがして右胸と左わき腹に貼り傷病者の体から離れます。  
AEDが心電図を調べ、電気ショックが必要なかを自動的に判断してくれます。

電気ショックの指示があった場合、周囲の人は離れるように指示しショックボタンを押します。

参加者の皆さんには、非常時に必要な知識と技能を、身に付けるため熱心に講習を受けていました。

救命率が1分間で約7〜10%ずつ下がっていきます。心肺停止になった人を救うのは、救急車が到着するまでに速やかに応急手当を行うことが最も大切なことであると、講習会では教えられました。

これからも、避難訓練やAED講習会を、定期的に行い、大切な命を、互いに守っていきたくて考えています。



松山教会では、AEDと救急箱を、玄関を入り、右側受付、マリア様像の横に置いてありますので、皆様一度ご確認をお願いします。

カトリック松山教会HP <http://catholicmatsuyama.com/> 随時、更新しておりますのであわせてご覧ください。

# 楠木に十字架を

待降節に、教会の庭にある楠木の木に十字架を飾り付けました。



日が暮れて、夜になると、十字架にイルミネーションが輝きます。



クリスマスミサは、コロナ禍にあつて、密を避けるために、人数を調整しました。



座席は、事前に申し込み、指定席に決めました。当日来られた方には、後ろに席を用意しました。



イエス・キリストが生まれた馬小屋は、質素な飾りつけにしています。

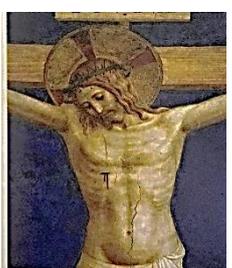


# はじめて教会へいらしたあなたに

はじめて教会へいらしたあなたに



だれでも教会に行ってもよいのですか  
神父とは、どういう人ですか  
神に何を祈ればよいのですか



日曜日の礼拝、「ミサ」とは何ですか  
神とはどういう方ですか  
イエスとは、  
マリアとは、  
どういう方ですか

初めて教会に来る人のために、わかりやすく説明した本です。  
家庭に1冊あってもいいではありませんか。  
1冊200円です。

# オアシス便り

竹内 節子



誰もいない静かなルルド。

人々が押しかけ歩くこともできない夏のルルド。

その人の渦の中で、聖母像の岩に病気の子どもを寄せ祈る母。

カトリックで聖地といわれている所だけでなく、私の感じる聖なる場は、季節の移り変わりの中で、何かを待っていた、幼い頃の生家の樹木や石のある庭。ロンセスバリエヌの教会のマリア像。



松山教会の聖堂、その前庭の楠木の下にある、マリア像の前にカフェができて、名前を募集していたので「ジャルダンドウマリー」（マリアの庭）は、どうかな等と思っていた。

カフェは、「オアシス」という名に決まりました。長いコロナ禍の中で閉まっていたカフェが再開した日、カフェの灯りを見て、駆けて行ってカウンターに座り、コーヒーを口にした時、まさしく「オアシス」だなと思った。

先日、東京から出張して来た青年が「オアシス」に立ち寄り、外国の教会の話になったので、関口のカテドラルや渋谷の南平台など、東京にある教会の紹介をし、「はじめて教会にいらしたあなたに」の冊子を差し上げました。

「オアシス」が宣教の場になっていないという批判を何人かの方々から聞きます

私も貴方も神から派遣されています。よい思いや願いが集まれば良い場になっていくと思います。

随分前のことだから、忘れていたのだが友人が、幼い姉弟を連れて教会を訪れ、聖堂を案内し、小さな十字架をあげたのだそうだ。

その幼い男の子は、今もその十字架を持っていて、40歳を過ぎた今、川上神父様から公教要理の話を聞いている。神の計らいは計り知れません。



待降節になって、「オアシス」にも小さな馬小屋を飾りました。貧しい馬小屋で生まれたイエス・キリストの元に羊飼いが太鼓を打ち鳴らし喜び駆けつける場面をバツハがクリスマスオラトリオの中で作曲し、それを踏まえてラファエロがタンポルシータを作曲している。



名画に描かれ、名曲が生まれる馬小屋のイエス・キリストはそれだけ人々の希望であり、喜びであり宣教であると思います。

この降誕節、教会に「オアシス」に友人を招き馬小屋を囲んでイエス・キリストの誕生を喜びたいと思っている。

定休日は原則・月曜日です。教会行事がある場合を除き、朝10時から夕方16時まで開けております。お気軽にお立ち寄りください。

### ●帰天者（9月以降）

- ヨゼフ 木村貞男さん
- パウロ 眞鍋 隆さん
- マリア・クララ 神田節子さん
- マリア・ヨハンナ・パウリーナ 大原春香さん

### ●転出者

- マリア・カタリナ 渡部佐百合さん

### ●転入者

- 新垣（シンガキ）ひなたさん
- 町永 莉恵子さん